

特定非営利活動法人 実務能力認定機構

(Accreditation Council for Practical Abilities 略称：ACPA)

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町5番地 早稲田駅前ビル

2003年 設立（内閣府認証）

2008年 国際的質保証認定機関「INQAAHE」加盟（学位授与機構に続いて日本で4機関目）



急激な環境変化の中で、企業は事業構造の改革を推進できる人材を求め、そのために必要になる実務能力を把握すべくその評価制度の確立を進めています。社会に人材を送り出す各種教育機関にも、従来からの知識・学識の醸成に加えて、こうした実務能力の育成に意を注ぐことが求められています。

こうした観点から産学連携が円滑に行われ、その中で個人の意志による長期的な学習計画に基づくキャリアアップが行われるようになることで、我が国の資産である人材の効果的な育成と活用により国際競争力が向上していくと期待されます。

上記を具現化する社会インフラとして、実務能力認定制度が必要であり、その運営組織として、2003年 産学官の賛同を得て、特定非営利活動法人 実務能力認定機構(ACPA)が設立されました。

実務能力認定制度の骨格は以下の3点です。

- (1) 企業・経済団体等の人材要件を分析し、職種に必要なスキルを反映した実務能力基準表を整備する。【基準表整備】
- (2) 実務能力基準表に基づき、教育機関の講座品質および効果を認証する。【講座認証】
- (3) 認証した講座の履修合格者には、その証明としてスキル認定を行う。【個人スキル認定】

実務能力認定機構(ACPA)は、既に「IT分野」「ビジネス分野」「語学(英語)」の実務能力基準表を策定のうえ公開し、数多くの講座認証を行い、スキル修得者に対する個人認定(スキル認定証明書の発行)を通じて人材育成を支援して参りました。しかしながら、これらの専門分野のスキルを活かす前提として、社会人としての基本的な資質能力の育成が急務となっています。

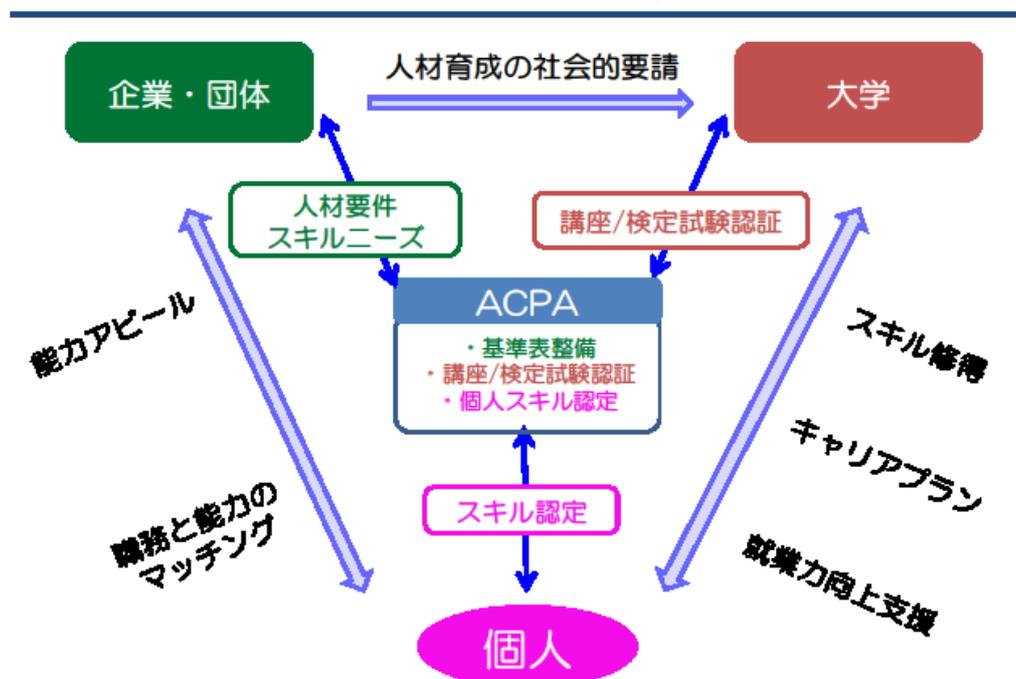
この度、大学生および社会人若年層を対象とした、「業種・職種に係らず、どの職業でも仕事をするために共通に必要なとされるスキル・能力」を、社会人リテラシーとして定義し、実務能力基準表を策定いたしました。

この基準表は、社会で仕事をするため必要とされる能力として、「業務遂行能力(テクニカルスキル)」「対人関係能力(ヒューマンスキル)」「概念化能力(コンセプチュアルスキル)」の3つの能力に「社会人基礎力」を加えて、4つのカテゴリで構成しています。また「業務遂行能力(テクニカルスキル)」においては、既存の「IT分野」「ビジネス分野」「語学(英語)」など専門分野の基準表における基礎スキル部分を包含しています。

各大学においては、大学設置基準の改正に伴い、従来からのキャリア形成支援活動に加え、「大学生の就業力育成事業」等により、その強化を図っておりますが、今後益々、キャリア育成科目等の充実が要請され、大学提供科目等を通じて育成するスキル内容および学生が修得したスキル内容の明確化が必要となっております。

ACPAは、認証・認定制度を通じて、大学提供科目等のスキル内容の明確化ならびに教育の質保証を行うとともに、学生が社会で必要となるスキル体系を理解したうえで、自身が修得するスキルの位置付けを意識できるように支援し、社会人としての人材育成を行います。

ACPAのしくみ



1

■基準表整備事業

2006年度 IT分野基準表(Ver1.0)公開開始

2007年度 ビジネス分野基準表(Ver1.0)公開開始

2009年度 語学(英語)分野基準表(Ver1.0)公開開始

2011年度 大学マネジメント・業務基準表(Ver1.0)策定、現在大学にてフィールド評価中

2012年度 社会人リテラシー基準表(Ver1.0)策定、現在公開準備中

専門家の意見、企業ヒアリング、各種団体等の資料に基づき、企業活動で求められる実務能力の洗い出しを行い、職種・職務で必要とされる知識・スキル項目を体系的にまとめ、実務能力基準表として提示しています。

現在公開済みの実務能力基準表は「IT分野」「ビジネス分野」「語学(英語)」の3分野であり、近々「社会人リテラシー」基準表が公開予定です。

実務能力基準表は下記にてダウンロード可能です。

公開サイト(AcPASS)URL : <https://acpass.acpa.jp/acpass/download.php>

実務能力基準表は以下の3つで構成されています。

- (1) スキルマトリクス：職種とスキルの相関表として、ある職種に求められる人材のスキル要件をマトリクス上で表記し可視化
- (2) 概要説明書：基準表の位置づけ、全体概要を記述
- (3) スキル項目説明書：スキルの分類項目とスキル要素を詳細に記述

◆実務能力基準表



◆実務能力基準表(IT分野)スキルマトリックス【抜粋】

スキル到達度			エントリーレベル						
★…概要を理解している(概要理解)			レベル0		レベル1				
★★…高い内容を理解し、応用できる(部分的単独実践可能)			未就業	開発	SE	運用	カスタマサービス	営業	スタッフ -企画/商務 -法務 -経理 -人事/総務
★★★…活用し、実践できる(単独実践可)									
カテゴリー	スキル中項目	スキル小項目							
IT基礎	インターネット	インターネットの基礎							
		E-mail							
		情報倫理	★★	★★★	★★★★	★★★★	★★	★★	★★
		WWW(World Wide Web)							
		セキュリティ対策							
	ビジネスツール	文書作成							
		表計算							
		プレゼンテーション資料作成	★★	★★★	★★★★	★★★★	★★★★	★★★★	★★★★
		データベース基礎							
	コンピュータ基礎	PC							
周辺機器		★	★★★	★★★★	★★★★	★★	★★	★★	
プログラム基礎									
パーソナルスキル	コミュニケーション	ドキュメンテーション							
		プレゼンテーション							
		インタビュー	★	★★	★★	★★	★★	★★	★★
		状況対応							
	リーダーシップ	リーダーシップ							
		メンバーの育成	★	★	★	★	★	★	★

◆実務能力基準表(IT分野)スキル項目説明書【抜粋】

カテゴリー名	中項目名	小項目名	要素名	スキル内容	
IT基礎	インターネット	インターネットの基礎	インターネット	インターネットサービス(DNS、WWW、電子メール、FTP、その他サービスの仕組み)、インターネットへの接続(ダイヤルアップ接続、専用線IP接続等)、インターネットの発展(イントラネット、ファイアウォール、電子商取引等)等の概要について理解している	
			インターネット要素技術	インターネット/イントラネットの概要、TCP/IPプロトコル、インターネット上のサービスの仕組み、Webコンテンツの作成技術、ISP/ASP、セキュリティ技術等の概要について理解している	
			インターネット情報活用	Webによる効果的な情報検索ができる、仕事に役立つツールの操作ができる	
		E-mail	メールソフト設定	メールクライアントソフト(Outlook Express、Outlook、Becky!など)の接続設定、分類設定ができる	
			メール基礎	E-mailでつかわれるプロトコルSMTP、POP(POP3、APOP、POP over SSL)、IMAP4、OutboundPort25、blockingやSMTPAuth、サブミッションポート(port587)などの重要性や意味を理解している メール送受信の仕組み、ヘッダフィールド(From、To、Cc、Bcc、Subject、本文、添付ファイル)の意味を理解し、正しく利用できる	
			メール	送ってはいけないメール、E-mailでのセキュリティ対策、ビジネスメールの書き方、メールの受信と整理、メールの便利な機能と注意点等について理解し、実践できる	
		情報倫理	倫理と規約	ネットワーク利用上の倫理やマナーを理解し実践できる ネットワーク利用上の違法行為を理解している RFC(Request for Comments)の概要を理解している	
			技術的判断/規格	情報倫理における、技術的側面、規格の重要性について理解している	
			被害者にならないために	情報危機管理について、できるだけ時事的な内容を含めケーススタディなどを通して理解している	
			加害者にならないために	プライバシー/名誉/知的所有権の尊重、情報危機管理の必要性など、情報化社会において注意すべき事項についてケーススタディなどを通して理解し、実践できる	
		WWW(World Wide Web)	WWW基礎	WWW基礎	WWWの概要を理解している WWWサーバの構成やWWWの仕組みを理解している
				HTMLタグ	HTML、アップロードを理解している
				スタイルシート、ホームページツール	スタイルシートの活用、ホームページツールの利用について理解している
				Webサイト構築、プロトタイプ作成	Webサイト構築、プロトタイプ作成について理解している
		セキュリティ対策	セキュリティの基礎知識	攻撃の種類(不正侵入、ウイルス、ワーム、マルウェア、ボットなど)を分類し、それぞれどんな被害を被るのかをケーススタディなどを通して理解している	

以下に基準表の構成を示します。

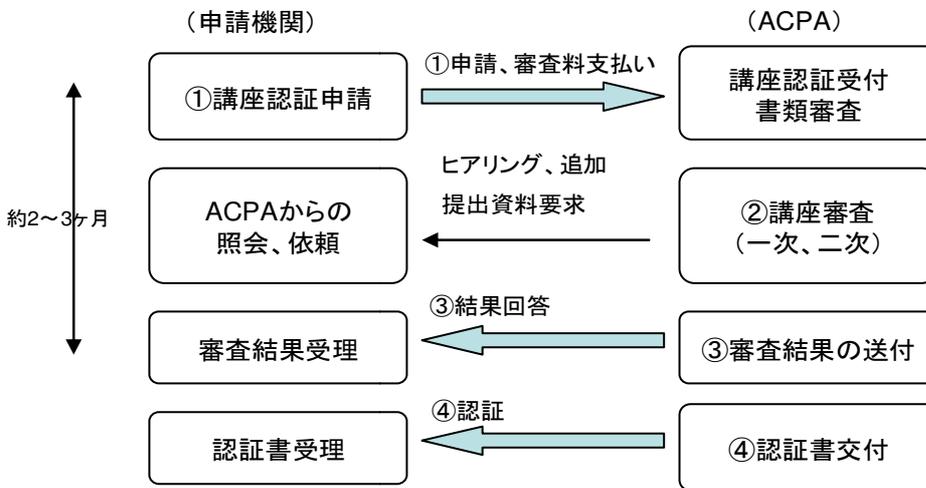
- ・スキル項目群を、「カテゴリー」「スキル中項目」「スキル小項目」に体系化しています。
- ・「スキル小項目」は、「要素」により構成され、要素はスキル内容として説明されています。
- ・あるレベル、職種において、当該スキルが要求される到達レベルを「スキル到達度」として表示しています。

- ★ 概要を理解している(概要理解)。基本的な事項を概略理解している。
- ★★ 高い内容を理解し、応用できる(部分的単独実行可能)。細かい事項についても深く理解している。
- ★★★ 活用し実践できる(単独実行可能)。事項の内容をよく理解していて全体の繋がりを説明できる。

※スキルマトリクスで示す「スキル到達度」は企業等へのヒアリングを通して得た企業からみたスキル要求レベルの目安であり、認証講座が具備する「スキル習熟度」と一致するものではありません。

■講座認証事業

- ・ 講座認証とは「実務に的確に対応できる人材」を育成する為の講座として必要な質が備わっている講座であることを ACPA が審査し、認証するものです。
- ・ 申請された講座の「スキル小項目」に関し、講座申請書と講座シートおよび教材・資料等に基づき、委員が審査を行い、申請内容の判定を行います。
- ・ 認証された「スキル小項目」について、修得できる習熟度の目安も提示します。
 - 1 スキル項目について基本的な内容を概要理解している。
 - 2 スキル項目について詳細な内容を深く理解している。
 - 3 スキル項目について実践に応用できる高度な内容を理解・修得し、実際に活用できる。
- ・ 講座認証のプロセスは以下の図のようになります。



【認証対象講座】

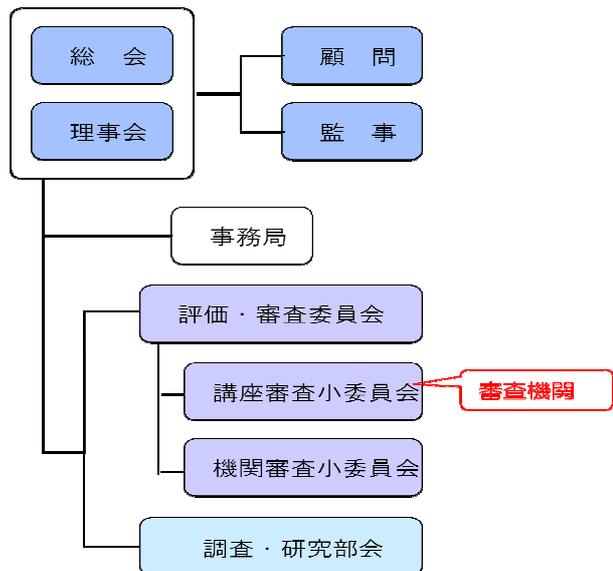
* 対象講座の制約はありません。

講座提供機関：大学および企業等

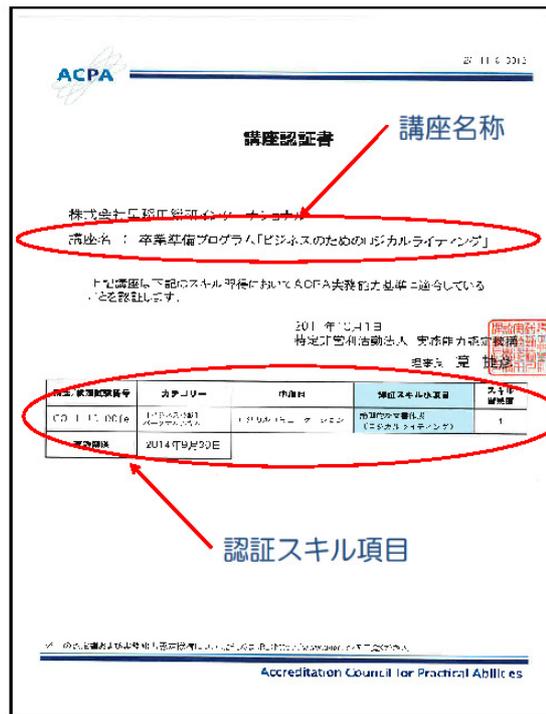
運営形態：クラスルーム、ゼミ、
eラーニング等

単位授与の有無

ACPA運営体制



◆講座認証書



◆認証講座/検定試験 実績

(2012年4月現在)

認証区分	認証件数
認証講座	110
認証検定試験	31

認証分野	認証件数
IT分野	116
ビジネス分野	9
英語分野	11
社会人リテラシー	5

提供機関	認証件数
大学	59
公益法人	19
企業	63

参照資料①

認証講座/検定試験の詳細情報は、下記公開サイト(AcPASS)にて検索可能です。

URL : https://acpass.acpa.jp/acpass/lecture_such.php

■個人認定事業

2007年度 評価実験開始

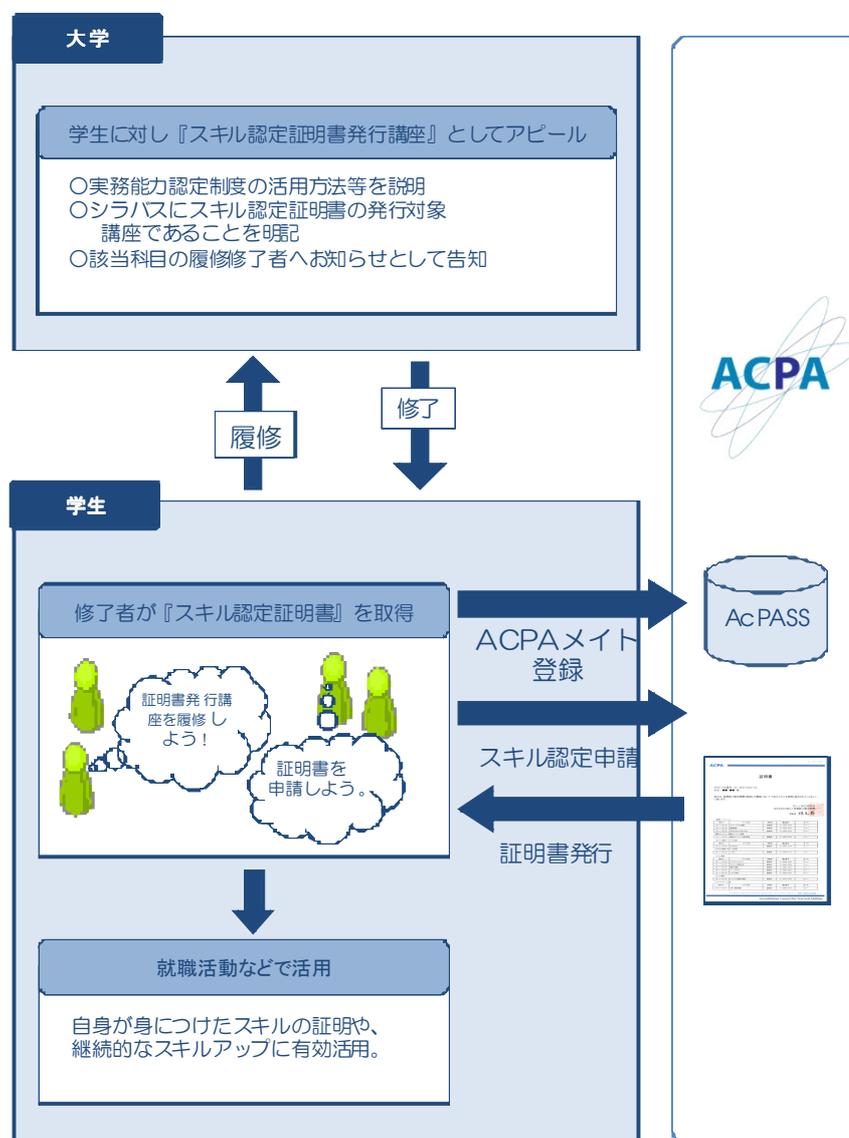
2008年度 個人スキル認定DBシステム「AcPASS」構築

2009年度 早稲田大学フィールド評価開始

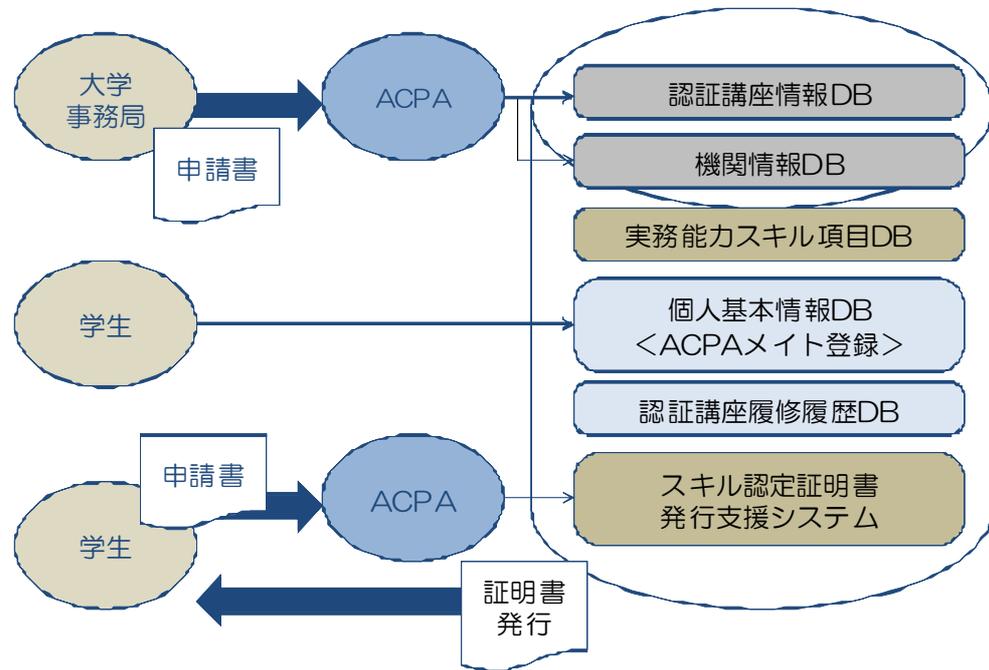
2010年度 個人スキル認定サービス開始（早稲田大学）

2011年度 教育機関等へのサービス紹介開始

- ・ 認証講座を修了し、該当スキルを獲得した者に個人スキル認定を行い、スキル項目レベル(スキル名称および習熟度)を記載した「スキル認定証明書」を付与します。
担当教員は、講座の修了に加え、予めスキル認定条件を位置づけることも可能です。
- ・ 認証講座で獲得したスキルは、ACPAでデータベース管理していますので、スキルの管理および蓄積したスキル証明の発行も可能です



【AcPASS運営システム】



AcPASS URL : https://acpass.acpa.jp/acpass/acpass_top.php

◆認証講座の活用

早稲田大学では、正規科目のACPA認証化を推進し、シラバスへ掲載のうへ、個人スキル認定証明書の取得を推奨しています。

The screenshot shows the website of the Waseda University Media Network Center. The page is titled '教育' (Education) and displays a '科目一覧表' (Course List Table). The table has the following columns: '科目名付クラス名', '学期', '曜日・時限', '配当年次', '単位', '定員', 'キャンパス・教室', '実験実習料', and '備考'. The '備考' column contains links to 'スキル認定証明書発行講座 (PDF:299KB)' for each course. A red circle highlights this column.

科目名付クラス名	学期	曜日・時限	配当年次	単位	定員	キャンパス・教室	実験実習料	備考
早稲田大学情報環境の活用 (アカデミックリテラシー) 01	春学期	金 5時限	1年以上	2	40	早稲田キャンパス 24号館 B1ルーム	¥1,000	スキル認定証明書発行講座 (PDF:299KB)
早稲田大学情報環境の活用 (アカデミックリテラシー) 02	春学期	金 3時限	1年以上	2	40	早稲田キャンパス 24号館 E1ルーム	¥1,000	スキル認定証明書発行講座 (PDF:299KB)
早稲田大学情報環境の活用 (アカデミックリテラシー) 03	春学期	木 4時限	1年以上	2	35	早稲田キャンパス 14号館 602教室	¥1,000	スキル認定証明書発行講座 (PDF:299KB)
早稲田大学情報環境の活用 (アカデミックリテラシー) 04	春学期	木 3時限	1年以上	2	40	早稲田キャンパス 24号館 C1ルーム	¥1,000	スキル認定証明書発行講座 (PDF:299KB)
早稲田大学情報環境の活用 (アカデミックリテラシー) 05	春学期	木 4時限	1年以上	2	40	早稲田キャンパス 24号館 C1ルーム	¥1,000	スキル認定証明書発行講座 (PDF:299KB)
早稲田大学情報環境の活用 (アカデミックリテラシー) 06	春学期	木 5時限	1年以上	2	40	早稲田キャンパス 24号館 C1ルーム	¥1,000	スキル認定証明書発行講座 (PDF:299KB)
早稲田大学情報環境の活用	春学期	火	1年以上	2	40	早稲田キャンパス	¥1,000	スキル認定証明書発行講座

参照資料②

◆スキル認定証明書 【IT・ビジネス分野】



【英語分野】



取得スキルを表示しています。

スキルの習熟レベルについては「習熟度」で表されています。
習熟度レベルは1～3まであります。

- 1：基本的な内容を概略理解している。
- 2：詳細な内容を深く理解している。
- 3：実践に応用できる高度な内容を理解・習得し、実際に活用できる。

どの科目でスキルを取得したかがわかり、成績証明書とあわせて確認することができます。

【証明書取得者の声】

- 目的意識を持って、計画的に履修科目を決めることができた。
- 授業を真剣に取り組んできたこと、目標を定めスキルを身につけたことの証明になった。
- 資格ではないが、授業を通じて身につけたスキルをアピールすることができた。

参照資料③

団体概要

団体名：特定非営利活動法人 実務能力認定機構（略称：ACPA）
 （英文名：Accreditation Council for Practical Abilities）

代表者	理事長	笥 捷彦	早稲田大学 理工学術院 教授
役員	専務理事 事務局長	内山 博夫	(株) 早稲田総研インターナショナル
	理事	伊藤 健二	慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科 特別研究准教授
		大塚 雄作	京都大学高等教育研究開発推進センター 教授
		樽松 明	早稲田大学 グリーンコンピューティングシステム研究機構 招聘研究員
		小林 尚登	法政大学 デザイン工学部 教授 情報技術 (IT) 研究センター 副所長
		阪井 和男	明治大学 法学部 教授
		谷口 邦生	早稲田大学 理事
		深澤 良彰	早稲田大学 理事, 理工学術院 教授
		山田 恒夫	放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター 教授
	監事	阿川 功	阿川事務所グループ 代表
		秋月 修	早稲田大学グループホールディングス(株) 取締役副社長
	顧問	安西 祐一郎	慶応義塾 学事顧問
		清成 忠男	法政大学 学事顧問名誉総長
		白井 克彦	放送大学学園 理事長

設立：2002年6月 「大学における実務教育及び実務能力認定に関する研究会」発足
 オブザーバ：文部科学省、経済産業省、厚生労働省、総務省、内閣官房
 2003年12月 内閣府よりNPO法人として認証

活動目的 企業・大学など教育機関・官公庁の賛同のもと、新しい教育システムと実務能力認定制度を確立し、社会が求める人材の育成を支援することをミッションとして掲げ活動しています。

- 主な事業
- ・実務能力認定制度に係わる調査・研究
 - ・実務教育に関する第三者機関としての認定・認証
 - ・個人の実務能力の認定

所在地：〒162-0045 東京都新宿区馬場下町5番地 早稲田駅前ビル3階

Tel 03-5273-9127 E-mail ingg@acpa.jp

<http://www.acpa.jp/>

【賛助会員】

伊藤忠テクノソリューションズ

ウチダ人材開発センタ

NEC ラーニング

大原学園

サーティファイ

シュビキ

ソニービジネスソリューション

ジャパンメディアシステム

東和エンジニアリング

日本電気

パナソニックシステムソリューションズジャパン

富士通

プロメトリック

早稲田総研インターナショナル